



小城市立歴史資料館 * 中林梧竹記念館だより

佐賀大学交流事業特別展「佐賀藩と小城藩－本家と分家の複雑な関係－」展を開催します

佐賀大学地域学歴史文化研究センターと小城市立歴史資料館が合同で企画展を開催します。

今回で19回目の交流展で「佐賀藩と小城藩」をテーマに関連資料とあわせて紹介します。

- ◆期間 11月5日(土)～12月18日(日)
- ◆場所 歴史資料館 企画展示室
- ◆入場料 無料



▲街道図(部分)

〈関連行事〉

【講演会】

「佐賀藩文政7年の政変と小城藩」

- ◆日時 11月12日(土) 14時～15時30分

- ◆場所 歴史資料館 研修室
- ◆参加費 無料 ◆定員 先着25人(要予約)
- ◆講師 伊藤昭弘さん
(佐賀大学地域学歴史文化研究センター長)

【小城の元武、水戸の光圀】

- ◆日時 12月10日(土) 14時～15時30分
- ◆場所 歴史資料館 研修室
- ◆参加費 無料 ◆定員 先着25人(要予約)
- ◆講師 三ツ松誠さん
(佐賀大学地域学歴史文化研究センター准教授)

【史跡探訪会】

「小城町右原地区の石造物を巡る」

- ◆日時 11月12日(土) 9時～12時
- ◆集合 小城公民館 三里支館
- ◆案内 小城市文化課職員
- ◆参加費 無料 ◆定員 先着20人(要予約)
- ◆申込期限 11月11日(金)

おぎの歴史探検隊

幕末小城藩と帆船「大木丸」の物語〈その1〉

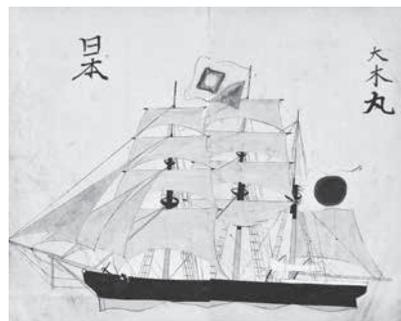
ペリー提督を乗せた黒船が日本の浦賀沖にやってきたのは、幕末の嘉永6(1853)年のこと。彼らはアメリカ海軍東インド艦隊の軍艦4隻で、合衆国大統領の親書を携えていました。江戸幕府はペリーの強硬な姿勢に折れ、翌嘉永7(1854)年「日米和親条約」を締結して、200年以上続いた日本の鎖国が終わりました。

黒船来航で危機感を抱いた幕府は、それまでの「大船建造の禁」を解除。これにより幕府・諸藩はともに、洋式船の建造や購入に力をそそぎます。安政4(1857)年三重津に「御船稽古所」を設けた佐賀藩は、海軍の伝習と蒸気船の建造をすすめ、並行して「電流丸」「甲子丸」など洋式船を次々と購入し、国内でも有数の海軍力を築きます。

佐賀藩の支藩である小城藩でも購入計画が持ち上

がり、慶応2(1866)年藩主・鍋島直虎に本藩から許可がありました。船の買付に長崎に出向いたのは、小城藩の綾部新五郎と有田の実業家・久富与平の2人でした。

グラバー商会から購入したのは、「ドルフィン号」という396トンのアメリカ製の木造帆船で、価格は1万4千両。この船は「大木丸」と命名されました。
(続) 小城郷土史研究会／著



▲大木丸図
(公益財団法人鍋島報効会所蔵・佐賀県立図書館寄託)

◆開館時間 9時～17時 ◆休館日 毎週月曜日・祝日 小城市ホームページから 梧竹・歴史資料館・文化財 検索
【問合せ・申込み】 歴史資料館 文化課(桜城館2階) 担当 下川・永田 ☎71・1132